

令和5年度第3回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和5年6月17日（土） 10時～12時

テーマ：投網で魚を捕って観察しよう

場 所：天王崎湖岸（行方市麻生）

講 師：中村 誠先生（元茨城県内水面水産試験場職員、当センターパートナー）

内 容：

霞ヶ浦には約 50 種の魚が生息し、そのほとんどは湖岸でも捕って観察することができます。この観察会では、投網などで実際に霞ヶ浦の魚を捕らえて観察する体験を通して、霞ヶ浦の生物多様性の豊かさを体感します。さらに、霞ヶ浦が水産資源の場として重要な湖であることを認識し、その環境を守ることの大切さを学びます。

参加者：42名（小学生22名、保護者20名）

担当職員：7名

パートナー：12名

結 果：

天王崎湖岸で、投網によって魚類などを捕獲し、観察を行いました。

まず、講師の中村先生から、霞ヶ浦の魚類、投網の扱い方、安全についての注意などの説明をいただいて、魚類の採集を開始しました。投網による採集は、最初のうちはなかなかうまくいきませんでした。徐々に慣れてきて、網に魚がかかるようになりました。

採集が終わったところで、捕れた生き物について、中村先生から解説をいただきました。解説のあった魚類（8種）・エビ類（2種）は以下の通りです。子どもたちは、先生の話を中心に聞き、たくさん質問をしていました。先生ご指導ありがとうございました。

最後に、観察した生き物を霞ヶ浦に放流して、無事観察会は終了しました。

ヌマチチブ

ハゼの仲間。左右の腹びれがその前端と後端でつながって丸くなっていて、石などにくっつく。

アシシロハゼ

トラゴロともいう。ヌマチチブに比べると体色は明るく、縞模様がある。

シラウオ

霞ヶ浦で漁業の対象となるたいへんきれいな魚。寄生虫がいるので生で食べてはいけない。

海で捕れるのはイシカワシラウオで別種の魚。

ウグイ

今回の観察会でたくさん捕れた。群れをつくって泳ぐ。似ている魚にマルタ（マルタウグイ）がいる。

オオタナゴ

中国から移入された外来魚。胸に黒いポチ模様があるのが特徴。

モツゴ（クチボソ）

受け口の頭部の形からクチボソとも呼ばれる。目から尾ひれの付け根のところに黒い線状の模様があるのが特徴。今回捕れたがバケツの中には残っていなかった（行方不明）。また、フナの仲間も捕れていたがこちらも行方不明。

チャンネルキャットフィッシュ（アメリカナマズ）

霞ヶ浦には多くいる外来魚。特定外来生物に指定されているので、捕って持ち帰ったり、無断で飼育したりすると罰せられる。胸びれと背びれに強いとげがあるので注意。

テナガエビ

霞ヶ浦にすむ代表的なエビ。名前の通りはさみのある脚が長い。食べると美味しく漁業の対象となる。

ヌマエビ

本来池や川にすむエビで霞ヶ浦ではあまり採れない。

第3回霞ヶ浦自然観察会



天王崎湖畔に集合して開会式



投網の使い方の説明



さっそく、魚とり開始



投網の操作も上手になりました



投網で捕獲できた小魚



捕獲された大きなチャネルキャットフィッシュ



採集した魚類について中村先生の説明を聞く



最後に採集した魚類を湖に放流する